

第4学年 国語科学習指導案

平成31年2月1日（金）

5校時

1 単元名・教材名

熱く伝えあおう！プロジェクトU

ーきょうみをもったところを中心に、しょうかいしようー

「ウナギのなぞを追って」光村図書4年下

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態と教材観・指導観（※児童の実態については、当日配付の指導案に掲載）

言語能力を向上させ、充実した言語活動を行うためには、「話す・聞く、書く、読む」の活動自体を課題とせず、「話したい・聞きたい！書きたい！読みたい！」という気持ちがあきおこってくるような課題を設定して単元計画をたてることが、必要不可欠である。課題解決のために必要な思考力が言語活動によって刺激され、単元の最後に言葉の力がついたら実感する体験は、児童の主体的な学習活動につながることと思われる。そのため、児童自身の力で言語活動に取り組むことができるような方法を模索し、児童の力にちょうどあっていて自分でやってみたくなるような課題を工夫していきたいと考えている。

本単元の教材は、長期にわたるウナギの産卵場所を探る調査についての報告文である。本単元では、この調査を「プロジェクトU」と命名し、その素晴らしさについてお互いに伝えあう紹介文の作成を、単元のゴールに設定する。自分が感動したことを中心に短い言葉で紹介するためには、読み手の側から自分の言葉で要約しなければならない。しかし本学級の児童にとって「要約」は初出事項で、読み手の側から自分の言葉で要約することは、その意味や方法を理解することすら難しいと思われる。さらに、教材文の「ウナギのなぞを追って」の文章は専門的な用語も多く使われている。また、ウナギの大きさを表す数字や稚魚等の採取場所、西暦、グラフや図等、児童にとって文章全体の内容を正確に把握するには、難しい要素が多い。そのため、以下のように指導の手立てを工夫し、主体的に活動に取り組めるようにする。

(2) 「主体的・対話的で深い学びの実現」のための手立て

文章全体の内容を正確に把握することを学習の第一次（「構造と内容の把握」）として設定する。文章の内容理解のために、重要語句に着目させたい。具体的な手立てとして、重要語句を他の語句に置き換えた文章（ダウト文）と教科書の本文を照らし合わせながら音読させて、誤字を見つけさせる。置き換えられた言葉を見つけることで、正しい語句に目が向き、読み取りの手助けになることと思われる。家庭学習で行っている音読練習の場も活用しながら、進めていく。

授業では、「時・場所・ウナギの大きさ」の観点に関わる語句を教材文から探し、教材文全体を表に整理していく活動に取り組みさせることで、調査全体の実態を読み取らせていき

い。さらに、仮説に基づいた調査が行われているという観点で読み取らせていきたい。そのために、事実と考えを表している文を教材文からそれぞれ探し出し、考えから「仮説」を見つけ出す活動を設定する。これらの読み取りをもとにして、文章全体の構成をとらえさせたい。

第二次（「精査・解釈」「考えの形成」）では、自分の興味関心にそって、要約する中心となる事項を決め、それに関する語句を見つける活動を行う。「ウナギのなぞ」に着目することを前提として考えさせると、その切り口として①レプトセファルスの成長に関すること②なぞの解明のための仮説に関すること③調査団の苦労に関することの3つが、児童から出てくると予想される。もちろんそれ以外の、その子らしい発想による切り口もあることと思われる。その自分なりの切り口を見つけ要約の方向性を絞っていくために、自分がより興味をもった図や写真を選択し、選択した理由について話す活動を取り入れる。要約するときの視点を見付けさせるため、まず、図（教材文 図1～図7）と文章を結び付けて内容を読み取らせる。選んだ図や写真を基に自分の考えを伝えあう活動を通して、自分の考えを明確にさせていきたい。要約の核が決まったところで、図とその図を選んだ理由に関連している言葉を教材文から見つけ、メモカードを作成していく。この時に見つけた言葉が、要約する活動に直結していくと考える。文章の内容を端的に説明するため、要約文全体の構成を考えてメモを整理し、選んだ言葉を用いて文字数が制限された文章にまとめさせていきたい。

第三次（「共有」）は、「プロジェクトU」を紹介する要約文を、共有する学習である。相手を変えながら二人組で要約文を紹介し合い、感想を伝えあう活動としていきたい。このことを通して、お互い要約する力がついていることを確かめ合うと同時に、一人一人の感じ方に違いがあることにも気づくことができると思われる。

3 単元の見目標

- (1) 調査によって明らかになる事実と、考察とで構成された調査報告文に興味をもち、進んで読もうとしている。 【関心・意欲・態度】
- (2) 目的に応じて、中心となる語や文が違ふことをとらえ、事実と意見との関係を考へて、文章を読むことができる。 【読むこと】
必要な情報と不必要な情報を区別し、目的に合った要約をすることができる。 【読むこと】
興味をもったところを発表し合い、一人一人の感じ方の違ひに気づくことができる。 【読むこと】
- (3) 観察・調査などの記録や報告をまとめるときに使う表現について理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準（省略）

5 指導と評価の計画（評価は省略）

	時間	学習活動	学習内容
第1次 「構造と内容の把握」	1	<p>「構造と内容の把握」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文の音読 ○初めの感想を書く。 ○単元のねらいをつかみ学習計画を立てる。 ○ダウト文の音読 	<ul style="list-style-type: none"> ○概要の理解 ○自分が興味をもった言葉の記録 ○単元の学習の進め方 ○ダウト語の見つけ方
	2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	<p>「構造と内容の把握」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べた理由と調べ方を読み取る。 ○考えとそれを支える事例をとらえる。 ○調査内容（時・場所・ウナギの大きさ等）を、表に整理する。 ○基本的な文章の構成を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調査の概要の理解 ○考えを表す言葉 ○仮説と検証の組み合わせ ○文章の内容の整理・把握 ○段落相互の関係
第2次 「精査・解釈」 「考えの形成」	⑥ ・ 7	<p>「精査・解釈」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紹介文の中心を決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもった図の決定 ・図を選んだ理由 ○自分の興味にそった言葉を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○要約の中心となる図・語や文の選択 <ul style="list-style-type: none"> ・図の理解 ・興味をもった理由の言語化 ○自分の興味にそった語や文の選択
	8	<p>「精査・解釈」「考えの形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○要約文を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・中心となる感想 ・文章の構成 ・メモの精選 ・メモの文章化 	<ul style="list-style-type: none"> ○重要語句の取捨選択 ○文章に対する中心感想の文章化 ○要約文の構成の理解 ○目的を意識したメモの選別 ○つなぎ言葉

第3次「共有」	9	「共有」 ○要約文（熱く伝えあおう！プロジェクトU）を伝え合う。 ○友達の要約文へ気づきを書く。 ○単元の振り返りを書く。	○共有のしかた ○感じ方の違いへの気づき ○ついた力の自覚
---------	---	--	---

6 本時の学習指導案（6／9）

（1）目標

図を使って文章の内容を把握しながら、「熱く伝えあおう！プロジェクトU」の中心となることばを決めることができる。

（2）評価規準

自分にとって必要な情報を見つけて、要約文の中心となる部分を考えている。

【読むこと】

（3）展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題とめあてをつかむ。	○単元目標の確認 ○前時までの学習の確認 ○本時のめあての意識	・単元のめあてと本時の学習のめあての関連を明らかにし、つけたい力を明確にする。	5
めあて 図を使って、自分が興味をもったことを言葉にすることができる。			
・めあてをノートに書く	○本時の学習課題の把握	・自分が一番興味をもった図を決定してその選んだ理由を文章化し、紹介文を書くために中心になることを決めていくことを確認する。	
2 本文の全文音読をする。	○言葉への新たな気づき	・改めて全文と図に目を通させ、自分が紹介したいことばに意識を向けさせる。	7
3 図と関連している文章を見つけ、図の表している内容をつかむ。	○図に関連する段落の選択 ○図と関連した語の選択	・図に表されている内容を、本文と関連させてつかませることで、図を使って伝えたい筆者の意図を明確にしていく。図に表されていることのキーワードを板書にのこし、タイトルをつけるときのヒントとしていく。	7

<p>4 自分が興味をもった図を選び、その図にタイトルをつける。</p>	<p>○図の選択</p> <p>○図の内容の言語化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章の中から紹介したいことを選ぶことが難しい子にも、自分が興味をもった図を選ばせることで、要約の中心となることを意識させる。 選んだ図に関係している叙述の中から、図のテーマにあった言葉を抜粋したり、自分の思いをこめた言葉を足したりしてタイトルをつけさせ、要約文を作るときのメモにつなげていく。 紹介したい事柄が決められない児童には、友だちのつけたタイトルを参考にさせながら自分の考えを言語化させていく。 	<p>14</p>
<p>5 選んだ理由を文章にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 選んだ理由を文章にして、メモに書く 	<p>○興味をもった理由の言語化</p> <p>○自分の考えの文章化</p>	<ul style="list-style-type: none"> タイトルと選んだ理由をメモにのこし、要約するときのタイトルや書きだし等に活用していく。 図を選んだ理由を文章化することで、自分が興味をもっていることの具体的な内容をはっきりさせる。同じ図を選んでいても児童によって選んだ観点が違い、その理由は何通りも考えられるので、一人一人の思いをくみ取って、評価する。 	<p>7</p>
<p>評価場面</p> <p><評価規準> 読むこと エ</p> <p><評価方法> メモの記述</p> <p><手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> メモの内容が、視点として適しているかを確認して、本人の興味に寄りそって個別指導し、関連する言葉を探す活動につなげる。 			
<p>6 本時の振り返りを書く。</p>	<p>○めあての確認</p> <p>○振り返りの記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> めあてにそった振り返りを書かせることによって、ついた力を確認し、次時の学習への意欲につなげる。 	<p>3</p>
<p>7 本時のまとめをする。</p>	<p>○学んだことの確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を通して、児童ができるようになったことや、力がついてきたことを教師が確認して、しっかりと認めることで、単元での言語活動 	<p>2</p>

		に意味があり、自分が成長している という実感をもたせる。	
--	--	---------------------------------	--